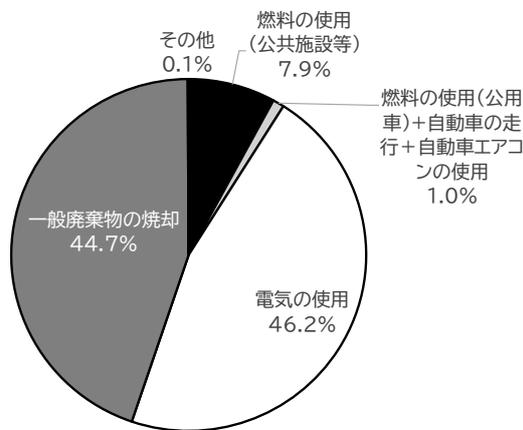
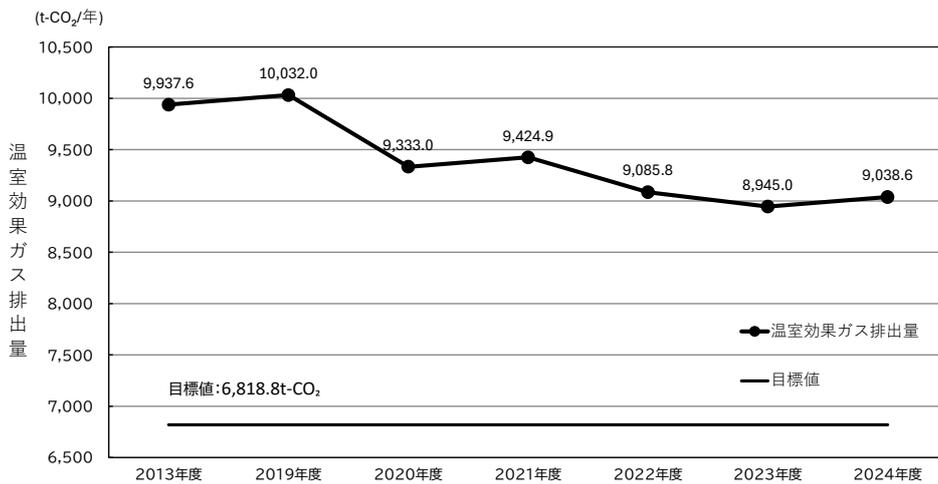


町の事務・事業に伴い発生する温室効果ガス排出量の実績は、9,038.6 t-CO₂/年でした。基準年度と比較して温室効果ガス排出量が899.0 t-CO₂/年(基準年度比-9.0%)減少していますが、2026(令和8)年度における目標(中期目標:6,818.8 t-CO₂/年)は未達成となっています。基準年度と比較して全体的には減少傾向にあるものの、中期目標達成に向けて、さらなる削減が必要な状況です。内訳をみると、電気の使用が46.2%と最も割合が高く、次いで一般廃棄物の焼却が44.7%、燃料の使用(公共施設等)が7.9%の順となっています。

2024(令和6)年度は、電力排出係数の減少により温室効果ガス排出量が減少に転じましたが、目標達成を困難にしている要因の一つとなっています。さらに、一般廃棄物の焼却に伴う排出量が増加に転じており、さらなる削減努力が期待されます。

2024年度(令和6年度) 基準年度比 899.0 t (9.0%) 削減



その他：ディーゼル機関等の使用、し尿・雑排水等の処理

※端数処理しているため、割合の合計が100%にならない場合があります。

温室効果ガス排出量削減のための取組

町の事務・事業に伴い発生する温室効果ガス排出量を削減するためには、節電とごみの減量(特にプラスチックごみ)が重要です。町民の皆様にも、日頃から使い捨て製品の使用を減らし、分別を徹底し、節電に心掛けていただくことで、一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量を減らすことができます。

町では、環境に配慮した設備への切替えや省エネ・節電対策、分別の徹底など、引き続き職員一人ひとりが温暖化対策に取り組んでいきます。

○今後の方向性

① 事務活動に係る取組

- ✓ これまで比較的高い成果を上げてきた行動面での取組(冷暖房や照明の使用時間・使用場所の適正化、クールビズ・ウォームビズの推奨、紙使用量の削減や再利用、エコドライブの実践など)を継続・定着させる。
- ✓ 施設改修や設備更新の機会を捉え、計画的に高効率設備や先進環境対応技術の導入を進める。
- ✓ 取組状況や効果の見える化を図り、各所属間での情報共有を進めることで、組織全体として一層の省エネルギー・温室効果ガス排出削減につなげる。

CoolBiz



デコ活ウェブサイトより抜粋
(<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/coolbiz/office/>)

② 事業活動に係る取組

- ✓ これまで進めてきた運用面での取組(建築材料の見直しや廃棄物の削減・リサイクル、森林整備や木材利用の促進)を継続・強化する。
- ✓ 施設更新や新規整備の機会を捉え、建物全体の省エネルギー化や再生可能エネルギー導入を中長期的な視点で計画的に進めていく。
- ✓ 事業ごとの取組効果を整理・共有することで、事業活動全体を通じた温室効果ガス排出削減の実効性を高めていく。
- ✓ 建物全体の省エネ化を目指し、最新のエネルギー管理システムや再生可能エネルギーの活用を検討する。



公共施設における木材利用の事例
(かんなみ仏の里美術館)

③ 廃棄物処理事業に係る取組

- ✓ これまで高い評価を得ているリデュース・リユース・リサイクルの取組を継続する。
- ✓ 廃棄物量や資源化量の把握・見える化を進め、リフューズを含めた調達・運用の両面からの対策を強化する。

